

# 令和2年度 「ハッピー♥スマイル」 第5回開催報告

- 【日時】 令和3年3月21日（日）13:00～  
【場所】 浅口市健康福祉センター  
ボランティア研修室  
【参加者】 保護者2名 子供2名 救急救命士1名  
医師1名 養護教諭1名



## 1 開 会

## 2 アレルギー情報提供

### ① 令和3年3月11日 読売新聞「医療ルネッサンス」

#### 「アレルギーを考える母の会」の東日本大震災被災地での取り組みの紹介

- 発災翌月に被災地を訪問、その際に分かった現地の実情を踏まえて日本小児アレルギー学会に避難所などで患者理解・支援を促すパンフレットの作成を要請。
- 日本アレルギー学会の医師の迅速な対応により発災2か月後の5月には「災害時のこどものアレルギー疾患対応パンフレット」が完成。
- 「アレルギーを考える母の会」は小児アレルギー学会からこのパンフレットを受領するとともに、助成金を活用して5000部を印刷。被災市町村や避難所等に直接持ち込んで掲示・活用を要請。
- それ以降現在まで、患者支援とともに現地でアレルギー患者を支えている被災自治体の保健師や栄養士、学校や保育所の教職員などに、講師となる専門医などを同行して研修の機会を提供する協力を続けている。

### ② 養護教諭より食物アレルギーに関する資料提供

- 「救急対応スキルアップガイド」  
アナフィラキシーの判断基準とエピペンの正しい使い方
- 「ピックアップ学校の傷病」 アナフィラキシー
- 「学ぶ・身につく養護教諭のフィジカルアセスメントのキホン」 アナフィラキシー
- YAHOO ニュース 高校生新聞 3月1日

口腔アレルギー症候群の食物アレルギーを持つ高校生の記事。アレルギーも自身の個性と思うようにしている。好き嫌いの問題ではなく、命にかかわる危険性もあることをみんなに知ってもらいたい。

### ③救急救命士より

「アナフィラキシー」という言葉は、新型コロナウイルスワクチンのいくつかある副反応の1つで、最近耳にすることが増えた。食物アレルギーでは、以前から命にかかわることであり、エピペンとともに再々取り上げられてきた。しかし、「アナフィラキシー」に特徴的な咳や腹痛があるわけではなく、症状そのもので見分けはつかない。そのため、食後に調子が悪くなった場合には早期からアナフィラキシーの可能性を考えておくことが重要だ。教育現場では、食物アレルギー研修を義務付けられているが、机上の研修だけでなく、アナフィラキシー対応の動画を参考にしたり、エピペンの打ち方の練習で研修が終わるのではなく、「アクションカード」を用いたシミュレーション研修なども取り入れてもらいたい。

### 3 情報交換

- ・学校給食で「誤配・誤食」が続き不安となり、毎日弁当を持参することにした。学校によっては、弁当を冷蔵庫に保管することになっていて、冷えた弁当を食べている。
- ・子どもに悪気はないのだが、時に同級生から給食と弁当を代えてくれと言われることがある。また、弁当を持参していることでいじめの問題もあり悩ましい。
- ・「アナフィラキシーショック」の不安がいつもある。現場の先生がどれだけ理解しているか。「アナフィラキシー」を起こすと眠くなる症状が出るが「これをただ眠たいだけ。」と判断され昏睡状態を見逃されるという不安もある。
- ・埼玉県の小学校では心肺停止状態になった児童の死戦期呼吸を呼吸していると判断され、AEDも使用されず救急隊到着まで何も施されず亡くなるという事故もあった。
- ・食物アレルギーは、「一歩間違えば死に至る病気である」という危機感を持ち、全職員共通理解のもと対応に当たってほしい。
- ・高学年児童には食物アレルギーについて理解を深めるように働きかけたい。
- ・PTAの保健部に所属するのであれば「食物アレルギーについて」学校保健委員会の話題にし、校医の先生に講演をしていただき、学校全体の食物アレルギーの意識の高揚が出来るように提案してみてもどうか？
- ・地域によっては食物アレルギーについてのマニュアルが作成されず、A4判1枚だけのものが各校に配布されていて卵・牛乳の除去以外のことは何も示されていないところもある。あらゆる方面から食物アレルギー対応マニュアルを作成するように指導や助言があっても出来ておらず食物アレルギー対応が各校でバラバラの対応となっている。消防への情報提供も各校任せで設置者は関わっていない現状がある。食物アレルギーは、いつだれがなるかわからない。給食の後の昼休み・5校時の体育で発症の可能性の多い「運動誘発性アナフィラキシー」は、どこの学校でも起こり得ることである。そして対応を間違えると命が亡くなる。設置者にその意識がなかなか持たれず食物アレルギー対応が統一されないままの現状の市町村があることは非常に残念でならない。

#### 参考

★今井孝成先生（昭和大学病院小児科教授）の講演より

- ・「食物アレルギーによる子どもの死亡事故は、30年間で2件。2件も起こっているのに、たった2件しか起こっていない、自分の園（学校）では起こるはずがないと思いませんか？職員全員が正しい世界観を持って安全性を最優先することが大切です。」
- ・子どもは朝、家を出たら元気で家に帰ってくるのが当たり前です。学校で命が危ないようなことがあってはいけません。コロナ禍でもあり、学校現場ではいろいろなことに対応が必要だとは思われますが、命にかかわることを最優先に、管理職は危機感を持ち学校として対応していただきたい。



今回は、令和3年5月16日（日）浅口市健康福祉センターで開催します。情報交換の予定です。新型コロナウイルス感染症の状況により、中止するかもしれません。事前にホームページでの確認をお願いします。

（浅口医師会 高山晴彦）